

## 授業の具体的展開例

( 記事例1についてペアで話し合った後 )

T では「この記事について、分かりやすかったところや、分かりにくかったところを、気が付いたところを話し合いました。」

C 力をこめておどつた、というところが伝えたいことの本心だと分かりました。

C たいこの音について「大きな音」だと言ったことが分かりました。

C 何年生の何月のことなのか、分かりません。

C おどっているときの様子が「力をこめて」だけではわかりにくいです。  
.....

T なおほほど、は、分かりにくいところを直すために、どのようなくことに気を付けたいでしょうか。まず、自分の考えを簡潔書きでノートに書きましよう。

( 各自 ノートに書く )

T では、自分の考えたことをもとにみんなと話し合いました。この記事をよりよい表現にするためには、どのようにならなければいけません。

C 「ソーラン節の本番がやってきました。」の前に、いつのことなのかを書いた方がいいと思います。

C 力をこめておどつたことが、記事の中心だから、もっとくわしく書いた方がいいと思います。

よさや課題の中から、推敲の具体的な方法に話題を焦点化し、板書で整理していく。

児童一人一人が考える時間を十分取る。その間に、机間指導で児童の活動の様子を見て、必要な支援を行う。

まずは、記事例のよさと課題について、思いついたことを数多く発言することを大切にする。

## 記事例

< 記事例 >

社会見学では、グループで力を合わせて活動しました。

わたしは、記録係をしました。

工場の人にインタビューしたことをきちんと書くことができました。

とても役に立ったとグループの人に言われて、うれしかったです。

< 記事例 >

ソーラン節の本番がやってきました。入場門にならびました。

たいこの大きな音が鳴り、かまえました。力をこめておどりました。

終わった後は、すくうれしかったです。

### 「活用」の力を育てるポイント

一度書いた文章を読み直し、よりよい表現に推敲できる力は、記録や説明などの様々な文章を書く学習活動を充実させる上で重要である。そのため、自分の文章を的確に推敲できるよう、例文を批判的に検討する学習活動を通して、実践的な技能を身に付けさせることが必要である。